

飯島賢二の『恐縮ですが...一言コラム』

第 169 回 なんのこっちゃ！？～意思疎通が出来ない言葉が氾濫している

2006.10.1

「前文略...インターネット全体がコミュニケーションプラットフォームとして運動、共鳴し、進化すると言う事になるでしょうか。もう少し具体的には、サイトやサービス、コンテンツがコンポーネント化され、コンポーネント化されたリソースがインターネットと言うインフラの上で複合的に利用されると言うイメージになります。...後略」

これは佐藤匡彦氏（小生全く知らない人）の IT メディアブログから、「Web2.0」に関する解説文章である。（http://blogs.itmedia.co.jp/web15/2005/08/web20_8a41.html）

なんのこっちゃ...正直言って、小生、何回読んでも全く意味が分からない。実年齢はともかく、心身ともに若く、最新情報を熟知する「ナイスミドル」と自負してきた小生も、さすがにこの手の文章は理解出来ず、何ともショックを隠しきれないでいる。当初は最新鋭の「Web2.0」情報を、ちょっと気張ってコラム化しようとパソコンを開けたが、やめた。とつても、人様に解説できるレベルでないこと、痛感した次第である。

でも、今このコラムを読んで頂いているあなた！冒頭の文章、本当に理解できますか??と、聞いてみたい。

インターネットや IT の世界に限らず、やたらカタカナ英語が氾濫し、しかも業界・業種、各分野ごとに独特の意味合いで使用する場合が多く、英和辞典を見てもさっぱり分からない。英語圏から生まれた外来語ゆえ仕方がないし、時代の流れに遅れている...と言ってしまうえばその通りだが、やっぱり、無性に虚しくなる。しかも、冒頭の文章の後に、それを読んだ読者から「分かりやすい解説でよく理解できました...」とのコメントを読むにつけ、一体、自分はどこの国に住んでいるのか、本気で悩んでしまっている。

「言葉」は人間同士、最大のコミュニケーション手段だと思っている。その言葉をつなぎ、具体的手段としての「会話」を展開することにより、「人」と「人」との意思や感情、思考を伝達する。「言語」や「態度」、「振る舞い」もその重要な手段であるが、とりわけ「文章」も大きな要素であると思っている。

その「文章」がお互い分かり難^づくなってくるとしたら、やはり大きな問題を含んでいると言わざるを得ない。冒頭の文章も、よく理解できる人はいるだろう。しかしそれはあくまで一部の人であり、多くの人は恐らく小生と同じ感想を持つに違いない。

せっかく伝達しようと思って発信した文章が、ディスコミュニケーション（相互不理解）となってしまうとすれば、実にナンセンスな結末である。「若者語」といわれる言語もある。「ためぐち」も親近感があるかもしれない。でも、大多数の円滑なコミュニティを形成するためには、発信する方も、また、それを受け取るほうも、もう少しお互いの気遣いが必要であるかもしれないと思っている。